

第32回全国研究集会

世界的な食料危機の中で、持続可能で健康的な食のあり方と生協の役割を考える

2023年10月28日(土) 13:00~17:45

私たちの食は、現在、その生産から流通、販売、消費、廃棄に至るサプライチェーンが一国内にはとどまらず、国境を超えて複雑に結び付いています。COVID-19 パンデミックによってグローバルな食品の流通は混乱し、人々の移動制限が食料生産にも影響を及ぼしました。ロシアによるウクライナ侵略はこれに拍車をかけ、食料価格高騰による入手困難、食品ロスに象徴されるような食料分配における公平性の問題と相まって、社会的に弱い立場にある人々を一層苦しめています。また、食料生産に伴う温室効果ガス排出量、食料生産のために使用される農地面積や淡水取水量などを考えると、私たちの食は「気候変動対策や生物多様性保護の実現の成否を左右する」といっても過言ではありません。栄養面でも、低栄養と肥満はともに世界の人々の健康に悪影響を及ぼしています。食料システムの変革は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」をはじめとするSDGsの目標達成に欠くことができないのではないのでしょうか。

食料価格高騰によって生協組合員を含む人々のくらしは厳しさを増し、食品不足の不安が高まり、食料安全保障をめぐる議論も活発に行われる状況の中、2023年度の全国研究集会は「世界的な食料危機の中で、持続可能で健康的な食のあり方と生協の役割を考える」をテーマに据えて開催いたします。持続可能性や公平性、健康などの観点から今後の「食のあり方」について改めて整理し、「すべての人が持続可能で健康的な食生活を享受できる社会のしくみづくり」に参画するため日本の生協が採るべき道について、参加者一人ひとりにお考えいただくことをめざすものです。

皆様のご参加をお待ちしております。

講演① 私たちの食生活と人・地球の健康(仮)

飯山みゆき(国際農林水産業研究センター 情報プログラム プログラムディレクター)

講演② 食料・農業・農村をめぐる情勢変化と今後の施策の方向

～農林水産省食料・農業・農村基本法検証部会「中間とりまとめ」等を受けて(仮)

杉中 淳(農林水産省 大臣官房総括審議官)

講演③ これからの「食のあり方」～地球と食卓をつないで(仮)

下川 哲(早稲田大学政治経済学術院 准教授)

パネルディスカッション 持続可能で健康的な食のあり方と生協の役割

会場 コモレ四谷タワーコンファレンス内会議室(来場・オンライン配信併用)

※ お申込方法など、詳細につきましては決まり次第、生協総合研究所ウェブサイトや『生活協同組合研究』にてお知らせいたします。

公益財団法人 生協総合研究所